

普及活動情勢報告（平成18年12月分）

安芸農業振興センター 農業改良普及課

情勢報告

ハチ刺され対策の研修と、農家への呼びかけ



事前の検査、刺された後の
迅速な処置が重要です。

管内では約170ha冬春ナスが生産されている。そのほとんどで花粉媒介昆虫としてハチが利用されている。

8月にナス農家のハチ刺されに関するアンケート調査をおこなったが、その結果多くの農家が被害をうけていることが明らかになった。そこで、JA土佐あき園芸研究会幹事会で、安芸福祉保健所の産業医師を講師に招き、ハチ刺され対策について研修を行った。

研修後は早速、芸西や安芸のナス部会などで、事前の抗体検査の必要性や刺された後の対処方法について紹介を行った。本格的にハチが働き始める春に向けて、各部会やJA・市町村の広報誌などを活用しながら、より一層のPRを行っていく。

常に経営改善への意識を持って ～JA安芸市青色申告会～



ナス新品種「土佐鷹」で、
反収18tを目指しませんか？

いよいよ年末ラストスパートの時期に入ってきたJA安芸市青色申告会。12月11～13日、赤野・穴内・中央支部と続けて講習会が開催された。講習の主な内容は、「家族専従者にどれくらいボーナスを支払えるか？」の話を中心に、年末・年始に行う税務の説明が行われた。また、農業振興センターからの情報提供として、「所得を確保するために、収量アップを目指そう！そのための一手段として、ナス新品種『土佐鷹』を導入しませんか？」という投げかけを行った。年明けから確定申告に向けて益々活動が活発になってくるが、税務だけで終わらないよう、常に経営改善への意識付けにつながる情報提供も行っていきたい。

安芸地域のナスの生育概要をホームページで閲覧できます

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/aki/saibai/saibai.htm>
を閲覧してください。

安芸地区のナスの生育現況が、安芸農業振興センターのホームページから見ることができる。市場などの流通関係者の要請にこたえて、今年9月からはじめたもので、月2回程度の生育について情報発信を行っている。これはセンターの普及指導員が日頃の巡回や調査で得た情報を取りまとめたものである。内容は開花・着果状況、ナスの樹勢や生育予測などであり、HPをみたナス生産者からも好評である。

オリエンタルユリ現地検討会



ユリの栽培状況

J A土佐あき球根部会のユリ栽培農家は、生産者10戸、面積4.5haである。

今年度は、

- ・ 超高級品は狙わないが、下級品を出さないこと。
- ・ 継続出荷すること。
- ・ 部会の販売額増。

を目標に取り組んでいるが、栽培状況の確認と、品質向上を目的に12月15日に現地検討会が行われ、活発な意見交換がなされた。

振興センターからは生育障害の発生要因について助言を行った。

冬場も目指せ！高品質・多収 第3回中芸地区ナスづくり懇談会



昼間の温度を活用せないかね！

12月上旬に、冬場の施肥管理と温度管理をテーマに、中芸地区懇談会を行った。施肥については、冬場はとくに植物に吸収されやすい肥料を選択すること、また葉面散布剤を積極的に利用することが重要であることを説明した。地温の低下により根や樹の動きが鈍いと感じている生産者が多く、納得した様子であった。また、日中と前夜半の温度管理で植物の光合成と転流をいかに効率的に行わせるか、冬場の温度管理のポイントについて説明した。中芸地区は日中温度を低めで管理する傾向があるが、「ナスは元々夏の野菜。人間が快適ではダメだ」など、日中の温度管理への関心も高まった。

生産者からは現地研修もしたい、という声も出た。その意見もふまえ、次回は2月に第4回を開催予定である。

北川村の交流資源のマップ化をすすめる。

北川村では、10月に都市と農村の交流を推進するため、交流推進会議を発足させ、地域内外の交流に役立つ資源「お宝」の洗い出しをしてきた。現在、振興センターと中芸地区農業振興協議会の協力のもと、村内の体験交流資源がひと目で分かるマップづくりをすすめている。12月12日には「お宝散策ワークショップ」を開催し、村内の交流資源を巡検した。村外の農家も参加し、交流コースとして2案ができた。ひとつは、観光地「北川村モネの庭マルモッタン」を核とした体験交流。もう一つは、春のフジや秋の紅葉などの景勝巡り「山菜の道」コースの案である。次回はさらに経済効果などを考慮したマップを作成する予定である。